

Argentina

アルヘンディーナ

No. 67



プエルト・マデロ、ブエノスアイレス (2012年11月撮影、水上前駐亜日本大使ご提供)

一般社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2015年12月

新大統領にマクリ氏 —アルゼンチン歴史的転換の時 (荒尾 保一).....2	～ 10月16日 (金) 茨城県長田小学校「アルゼンチンの日のつどい」8
「星の王子さま」とアルゼンチン (平尾 行隆).....3	～ 10月16日 (金) 第28回「タンゴ音楽の集い」.....9
海上自衛隊練習艦隊のアルゼンチン訪問 (津島 勝二).....4	～ 10月18日 (日) アルゼンチンタンゴ・コンサート in 湯河原...9
アルゼンチン政治経済短信 (吉村 佳人).....5	～ 10月28日 (水) フェスティバル・ラテイノアメリカーノ20159
Resumen en castellano (Irene Gashu).....7	～ 11月8日 (日) 第53回アルゼンチン共和国杯 (東京競馬場).....9
協会の活動案内	トピックス
～ 当協会主催「タンゴ音楽の集い」 一次年度開催予定.....7	～ 八代市とアルゼンチンのかけ橋に.....10
協会の活動報告	～ 演歌歌手 大城バネサ追っかけ三兄弟、 延岡、真鶴の旅.....10
～ 9月2日 (水) 当協会会員高橋幸子画家に同道、 デジャン大使を表敬.....7	～ 新刊書物の紹介「ハンガリー公使大久保利隆が 見た三国同盟—ある外交官の戦時秘話」.....11
～ 10月10日 (土) 第10回アルゼンチン大使館カップ・ ゴルフトーナメント.....8	～ 山本嘉子 (当協会会員) 著 「ジャカラランダ幻想」が入選.....11

新大統領にマクリ氏

—アルゼンチン歴史的転換の時—

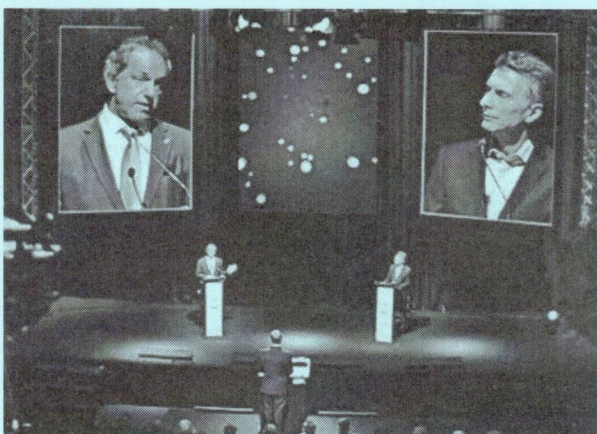
荒尾 保一

1. 新大統領決定までの経緯

今年12月10日に任期が満了するクリスティーナ・フェルナンデス大統領の後継を決める大統領選挙は、11月22日の決選投票において、マクリ候補が当選し、12年間に亘るキルチネルークリスティーナ両政権の路線から大きく転換し、新たな発展段階を迎えることとなった。その間の経緯は次のとおり。

今回の大統領選挙は、現政権の路線継承を唱える与党(勝利のための戦線)のダニエル・シオリ プエノスアイレス州知事、変化を主張する野党(カンビエモス)のマウリシオ・マクリ プエノスアイレス市長、かつてはクリスティーナ政権の閣僚であったが袂を分かったセルヒオ・マサ ティグレ市長その他多数の候補によって争われた。10月25日の大統領選挙においては、シオリ候補が選挙前の予想を大きく下回る37,08%、マクリ候補が34,15%、マサ候補が21,39%となり、選挙規程により、亜国の歴史上初めての上位2者による決選投票となった。

決選投票の結果、マクリ氏が51,34%、シオリ氏が48,66%となり、マクリ氏が新大統領に当選した。

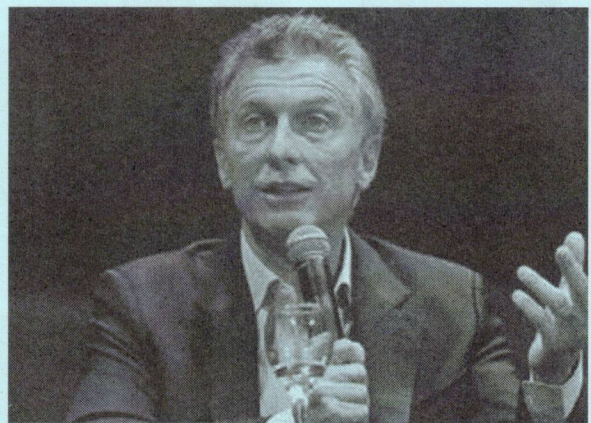


決選投票前の公開討論の二人

2. マクリ氏の経歴

マクリ新大統領は、プエノスアイレス州タンディール市生まれ、56歳のイタリアからの移民二世である。一代で大企業を築いた父の企業やその他の企業での勤務経験があり、人気のサッカークラブ ボカ・ジュニアーズの会長を務めたことは有名である。

32歳の時金銭目的の誘拐に会い、生命の危機にさらされ、人生観が変わったという。44歳の時左派路線に対抗する政党を立ち上げ、2年後に下院議員に当選、2007年からはプエノスアイレス市長を務めてきた。アナリストは、政治を経営感覚でとらえていると評する。



勝利したマクリ氏

3. 今後の政策

これまでの経歴が示すように、マクリ新大統領は、これまでの左派的保護主義から大きく転換し、市場原理を重視する開放路線に移行するものと思われる。輸出税の緩和や外貨取引や貿易についての厳しい規制を緩和などの方向へ向かうことが予想される。また、デフォルト状態からの脱出のため、投資ファンドとの交渉も始められよう。

外交姿勢も転換し、米国等自由主義諸国との関係は大きく改善するものと思われる。我が国にとっても、関係強化の大きなチャンスを迎えたと考えられる。

しかしながら、アルゼンチンの新しい議会構成は、下院は従来の野党が過半数であるが、上院は従来の与党(勝利のための戦線)が過半数を占めており、政策運営については、多くの困難が予想される。新政権の発足を契機に、亜国政界が対立を昇華し、新しい発展に向かって歩みだすことを期待したい。

(上記中、意見に亘る部分は私個人の考えであって、当協会を代表する意見ではありません。)

(あらお やすいち：当協会理事)



「星の王子さま」とアルゼンチン

平尾 行隆

「星の王子さま」の作家であるアントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ（1900-1944）は、フランスの郵便飛行会社のアルゼンチンに於ける子会社の総支配人として、1929年10月から1931年2月まで務めていた。

アルゼンチンの大自然と人々が盛られた彼のもう一つの作品「人間の土地」（1939）には、「星の王子さま」（1943）のもとになるものが描かれている。すなわち、飛行中に不時着したエントレリオス州のコンコルディアでの出来事である。フランス系の夫婦の大きな古い城館に招待され、星の王子さまを思わせる、妖精のような二人の少女と出逢う。夕食の席では、食卓の下に巣食っているヘビで、アントワヌをビックリさせようと企んでいる場面がある。

ブエノスアイレスの国立航空博物館には、当時、アントワヌがアルゼンチンの各地、パタゴニアで操縦していた飛行機が保存されている。

1930年9月初旬、アントワヌは、生涯の伴侶となるコンスエロ（中米エルサルバドル出身、1901-1979）と、ブエノスアイレスで出逢っている。「星の王子さま」のなかに出てくる赤いバラの花は、彼女のことである。

コンスエロの書いた手記に、「バラの回想」（2000）がある。このなかで、アントワヌとの馴れ初めが書かれている。アントワヌは、ブエノスアイレスでのフランス文学に関する講演会のパーティーで、コンスエロに一目惚れする。そして、彼の操縦する飛行機に彼女を誘い、夕闇のラプラタ川の上空を飛ぶ。アントワヌは、突然、コンスエロに自分のキスを受けて欲しいと言い出した。「キスをしてくれなければ、あなたを沈めますよ」と脅かし、海をめぐって急降下しようとした。コンスエロも、これには抵抗しきれず、キスをとうとう許したのであった。その後、アントワヌは、コンスエロに言った。「今にわかる。あなたは僕と結婚しますよ」と... 二人は、翌年の1931年4月、フランスで結婚している。アントワヌが、1944年7月31日、第二次世界大戦の偵察飛行中、地中海の空に消えるまで、約13年間の結婚生活であった。途中、離

婚を云々するという危ない時期もあったが...

当時の南米における郵便飛行の様子を描いた「夜間飛行」は、1931年12月、フランスでフェミナ賞を受け、アントワヌの作家としての地位を確立した作品である。この執筆時期は、アントワヌとコンスエロが、ブエノスアイレスで、お互いに恋人としての熱い交際を続けている頃であった。コンスエロは、アントワヌの求めに応じて、助言をし、その創作に協力している。コンスエロは、絵を描き、彫刻も制作、小説を書き、ピアノも弾く芸術家肌の女性であった。

余談になるが、チェ・ゲバラ（1928-1967）と「夜間飛行」につき興味ある話がある。ゲバラは、飛行機セスナの操縦をキューバ人の師（パイロット）に習っていた時期があった。彼は、教えを受けた礼として、献辞を添えて「夜間飛行」を師に贈っている。この事実は、1965年のこと、ゲバラがフィデル・カストロと決別してコンゴに出発する直前の出来事であった。

（私が2011年11月ハバナ訪問時、この逸話が書かれた本をキューバの出版社からプレゼントされた。）

アントワヌとコンスエロは、こよなくタンゴを愛していた。コンスエロは、特にその踊りを...二人は、キャパレーのアルメノンヴィルやタパリズでタンゴをよく楽しんでた。作曲家サウル・コセンティーノは、彼自身、飛行機のパイロットの経験があり、アントワヌを敬愛していた。彼は、パイロットを辞めた1990年より、タンゴの作曲に専念し、アントワヌに「栄光への飛行」（Vuelo hacia la Gloria）を捧げている。

アントワヌとコンスエロは、1930年12月15日、当時ブエノスアイレスにあった“日本公園”（Parque Japones）を訪れている。しかし、その11日後の26日に、この公園は大火災で消失した。1911年に造られたこの遊園地は、当時ニューヨークにあったコニーアイランドやパリのルナパークに匹敵する規模を持つものであった。富士山の真ん中にトンネルを造り、汽車の観覧車を走らせ、麓には二つの池、お茶屋や寺があるテーマパークであった。今日では、この公園のことは、忘れ去られているが、タンゴ“ガルーファ”の歌詞や、

アドルフォ・ビオイ・カサレス、シルビーナ・オカンポなどの文学作品に残されている。

コンスエロは、1930年12月下旬、約4ヵ月のブエノスアイレスでの滞在を終え、フランス行きの客船に乗った。アントワヌは、翌年の1931年2月1日、フランスへ帰る。以後、アントワヌは、アルゼンチンの地に足を踏み入れることはなかった。

「星の王子さま」の創作についても、コンスエロは、アントワヌを助け、ミューズ（創造の女神）となっている。これについては、フランスの文学者アンドレ・モーロワの目撃証言がある。そして、「星の王子さま」の初版は、1943年4月6日に、ニューヨークで出版された。第二次世界大戦の最中であった。

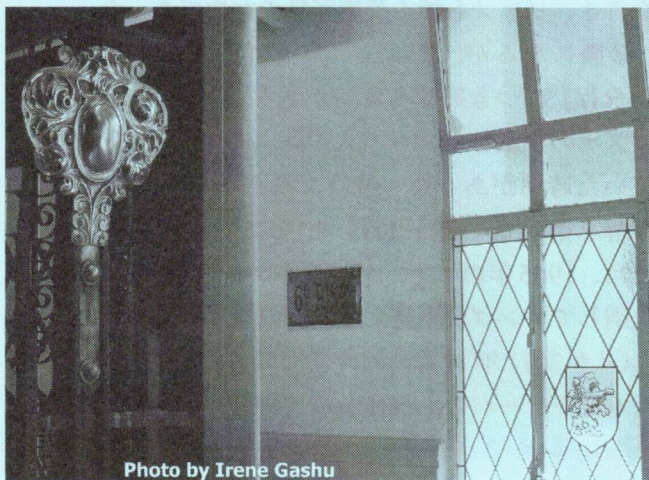


Photo by Irene Gashu

アントワヌが住んでいたGaleria Guemesのマンション
(今年で築100年) 入り口

アントワヌが生きた20世紀の前半は、まさしく激動の時代であった。すなわち、第一次世界大戦(1914-1918)と第二次世界大戦(1939-1945)である。アントワヌは、この間、フランスの新聞社から依頼を受け、ルポルタージュのため、スペインの内戦をつぶさに見ている。また、彼自身、第二次世界大戦の戦闘を経験し、「戦う操縦士」(1942)、「ある人質への手紙」(1943)で、戦争の非人間性を強く指摘した。「星の王子さま」は、地球の平和への祈りが込められた作品である。

(ひらお ゆきたか:当協会会員、元三井物産勤務時、中南米各地に駐在、1990年同社退職後は、日本と中南米各国の音楽・文化交流に協力。

また現在、サン=テグジュベリ「星の王子さま」の研究を進めており、その著作、講演等多忙に活動されている。)



「サン=テグジュベリ 伝説の愛」

-この本には、アントワヌとコンスエロの愛の軌跡が詰まっている-

海上自衛隊練習艦隊のアルゼンチン共和国訪問

津島 勝二

今年度(2015年)、海上自衛隊練習艦隊がアルゼンチン共和国を訪問しました。

その概要は次のとおりです。

1. 編成

- (1) 指揮官:練習艦隊司令官中畑康樹海将補(旧帝国海軍の海軍少将に相当)
- (2) 参加艦:旗艦練習艦「かしま」(艦長小沢輝男1等海佐)、練習艦「しまゆき」(小畑聖一2等海佐)、護衛艦「やまぎり」(橋本聖一2等海佐)

(1等海佐、2等海佐は旧帝国海軍の海軍大佐、海軍中佐に相当)

(3) 参加人員(乗組員)

防衛大、一般大の卒業者が広島県江田島の海上自衛隊幹部候補生学校において、1年間学んだ後、新たに3等海尉、一部の大学院卒は2等海尉(旧帝国海軍の海軍少尉、海軍中尉に相当)に任官した実習幹部約170名を含む総勢約700名(内女性自衛官:実習幹部18名を含む計53名)

2. 日程及び航程

5月21日～10月27日（160日間）、約29,500マイル（約54,600キロメートル）

3. 訪問国

アルゼンチン共和国を含む、北アメリカ、中央アメリカ（5ヶ国）南アメリカ（6ヶ国）の計12ヶ国16寄港地

4. 今航海の特記事項

今航海において、練習艦隊は、南アメリカの冬の8月に、1920年の旧帝国海軍軍艦「磐手」、「浅間」の通峽以来、2度目のマゼラン通峽を実施。

（冬のマゼラン海峡は海が荒れ、世界の海上上の難所と言われています。）

5. アルゼンチン共和国（ブエノスアイレス）における主要行事

8月16日から8月19日までの練習艦隊のアルゼンチン共和国ブエノスアイレス在泊中に次の主要行事が実施されました。

- ・練習艦隊司令官の表敬訪問（アルゼンチン共和国海軍総参謀長、福寫駐アルゼンチン大使、その他の高官）
- ・サン・マルチン將軍像に対する献花
- ・練習艦隊司令官のアルゼンチン共和国海軍に対する防衛講話
- ・お互いの招待による昼食会・夕食会、各種パーティの交換
- ・艦内一般公開、スポーツ交換、練習艦隊音楽隊の演奏などの各行事

皆様御承知のとおり、ラテンアメリカ諸国は、全て親日的な国々ですが、特に、アルゼンチンに於いては、いつも変らぬ親日感と伝統的な旧日本帝国海軍、日本国海上自衛隊とアルゼンチン共和国海軍との友情により、大歓迎を受けたとのことであります。

また、在アルゼンチン日本国大使館、在留日本各企業、日系人の方々に大変お世話になったとのことであり、御参考までに一般社団法人「日本アルゼンチン協会」の皆様にお知らせ致します。

（つしま しょうじ：当協会顧問、「アルゼンチン観戦武官の記録」の翻訳者）

（注）訳書「アルゼンチン観戦武官の記録」とは、アルゼンチン海軍のマヌエル・ドメック海軍大佐（後に海軍大将、海軍大臣）が、1905年日露戦争に於いて、日本連合艦隊の装甲巡洋艦「日進」（アルゼンチンから日本が譲り受けた装甲巡洋艦「モレノ」、「リバダビア」の2隻は、日本連合艦隊の「日進」、「春日」のこと）に乗艦して、海戦をつぶさに観戦、アルゼンチン本国に提出した公式報告書の翻訳版。

津島氏が、かつて海上自衛隊にご在職時、アルゼンチンから海上自衛隊に贈呈されたものを同氏が翻訳されたもの。

— 亜国政治経済短信 —

吉村 佳人

1. 主な地方選挙の結果

(1) ブエノスアイレス市長選挙

7月19日に行われた決選投票の結果、マクリ・ブエノスアイレス市長の推すロドリゲス・ラレタ候補（反現政権派「共和国提案」）がルストー候補（反現政権派「組織市民エネルギー」）をおさえ当選した。

(2) コルドバ州知事選挙

7月5日に行われた地方選の結果、デ・ラ・ソタ現州知事の推すスキアレティ候補（反現政権派「コルドバ連合」）が当選した。

(3) ブエノスアイレス州知事選挙

10月24日の大統領選挙と同時に行われた州知事選挙において、マリア・エウヘニア・ビダル候補（反現政権派「カンビエモス」）が、予想を覆し、アニーバル・フェルナンデス候補（ペロン党現政権派）を抑え、当選した。これにより、総人口の37%を占めるブエノスアイレス州で28年続いたペロン党系の州知事に途絶えることになった。

(4) その他

有権者数が多いサンタフェ州では急進党の推すリフスチツ候補、メンドーサ州ではマクリ新大統領の推すコルネホ候補が当選した。

フェルナンデス前大統領派は北部やパタゴニア等比較的人口の少ない地方州では勝利したが、人口の多い州では敗北した。

2. 経済情勢

(1) マクロ経済指標の動向

2014年のアルゼンチンの名目GDPは4兆4123億ペソ、実質GDP成長率は0.4%増となり、2013年の2.9%増から成長は鈍化した。このうち、民間消費は0.3%減、固定資本形成は5.3%減で、輸入の減少が11.8%と大幅であったためにかろうじてプラス成長となったが、経済は好調とは言えない状況にある。また、2015年第1四半期の実質GDPは対前年同期比1.2%増であったが、民間消費は同3.9%減と冷え込んだ状況が続いている。

他方、2015年第1四半期の失業率は7.1%、準失業率は7.6%で、2011年頃から高水準ながらも安定しており、2000年代前半のきわめて悪化した状態からは脱している。

なお、Merval指数は9月24日に9288の安値を付けた後、大統領選でのマクリ候補の追い上げ等に対する期待感もあって上昇し、決選投票直前の11月20日には14173まで上昇した。しかし選挙後は落ち着きを取り戻し、11月26日の終値は13165となっている。

INDEC（国家統計局）発表の消費者物価上昇率は、2014年末時点で前年比23.9%の上昇であった。その後も前月比1~1.3%程度の上昇が続いている。ただし、民間コンサルタント8社推計のブエノスアイレス市の物価上昇率は2%代前半となっており、実際にはINDEC発表よりも高い水準で推移しているものと思われる。

2015年10月末現在の為替レートは1ドル=9.51ペソ。

(2) 経済関係のトピックス

①米国向け牛肉輸出の再開

米国は口蹄疫の発生により2001年からアルゼンチン産牛肉の輸入を禁止していたが、2007年の国際獣疫事務局によるアルゼンチンの口蹄疫清浄国認定、WTOへの提訴等を経て、北部をワクチン接種清浄地域、南部をワクチン非接種地域として認定し、9月1日から輸入が再開された。なお、日本はアルゼンチンがワクチン接種国であることから輸入禁止措置を続けている。

②新たなシェールガスの発見

アルゼンチンはシェールオイルで世界第4位、シェールガスで世界第2位の可採埋蔵量が期待されているが、新たにネウケン州でシェールガスの埋蔵量が発見され、国営YPF他2社は今後20年で380億ドルの投資を行い、シェールガスを生産する計画であることを発表した。

③鉄道の国有化

4月、民営化されていた鉄道の再国有化法案が可決され、5月、アルゼンチン鉄道公社（Ferrocarriles Argentinos S.E.）が設立された。

3. 日亜関係

(1) 公的債務返済に関する署名

2015年7月15日、14年5月の主要債権国会合であるパリクラブにおける包括合意に基づき、2001年のデフォルト（債務不履行）で返済が滞っていた対日公的債務の返還、リスケジュールに関する署名が行われた。これにより、アルゼンチンは日本に対して2019年までの5年間で約200億円を返済することになる。これによりアルゼンチンの信用力は高まることが期待される。なお、対日公的債務は全公的債務の約2割を占め、ドイツに次いで多くなっている。

(2) 自動車生産

日産・ルノーはフェルナンデス大統領を訪問し、2017~2018年にピックアップトラック生産のため6億ドルを投資する計画を伝達した。

また、ホンダの新型自動車（HR-V）の生産が開始された。

(3) 政府要人の訪亜

5月、西村国土交通副大臣が訪亜し、ゴンサレス経済・財政副大臣との間で、港湾開発に関する覚書に署名した。

8月、宇都外務大臣政務官が訪亜し、亜側関係者等と日亜二国間関係について協議した。

9月、小泉農林大臣副大臣が訪亜し、カサミケラ農牧大臣と農畜産品貿易の強化等について協議した。

（よしむら よしと：当協会常務理事）

Resumen en castellano

por Irene Gashu

Nuevo Presidente Macri (p. 2)

Por Yasuichi Arao

En la segunda vuelta realizada el 22 de noviembre pasado, ganó Mauricio Macri y será el nuevo presidente. Desde 2007, fue intendente de la ciudad de Bs.As. Su victoria implica un cambio radical del proteccionismo de izquierda. Se espera que mejorarán considerablemente las relaciones de Argentina con Estados Unidos y otros países liberales.

El Principito y Argentina (p. 3)

Por Yukitaka Hirao

Antoine de Saint-Exupéry, autor de “El Principito”, conoció a Consuelo Suncín que sería su media naranja, en Bs.As. A ambos les gustaba mucho el tango. En Concordia, Entre Ríos, se produjo su encuentro con dos niñas que nos harían recordar a “El Principito”. La época en que vivió Antoine, entre las dos guerras mundiales, fue muy turbulenta. “El Principito” es una plegaria por la paz en la Tierra.

Visita de buques de la Fuerza Marítima de Autodefensa (p. 4)

Por Shoji Tsushima

Buques de entrenamiento de la Fuerza Marítima de Autodefensa de Japón visitaron Bs. As. del 16 al 19 de agosto pasado, con alrededor de 700 tripulantes (de ellos, 53 mujeres), incluyendo a alrededor de 170 guardiamarinas (de ellos, 18 mujeres). En este viaje, los buques cruzaron el Estrecho de Magallanes en invierno por segunda vez. La primera vez fue en 1920.

Política y economía de Argentina (p. 5)

Por Yoshito Yoshimura

1) Resultados de las elecciones en el interior: Horacio Rodríguez Larreta (Cdad. de Bs.As.), Juan Schiaretti (Prov. de Córdoba), María Eugenia Vidal (Prov. de Bs.As.); 2) Situación económica: Según el INDEC, la inflación de 2014 fue del 23,9%. Estados Unidos reabrió su importación de carne vacuna argentina. Los ferrocarriles argentinos fueron renacionalizados.; 3) Relaciones entre Argentina y Japón: Argentina pagará su deuda a Japón en un plazo de 5 años. Nissan-Renault invertirá 600 millones de dólares para fabricar pick ups en Argentina.



協会の活動案内

～当協会主催「タンゴ音楽の集い」 一次年度開催予定

毎回大好評の飯塚久夫氏（当協会理事、日本タンゴアカデミー会長）による「タンゴ音楽の集い」を来年も引き続き開催しますので、お友達・ご友人にもお声

をかけて頂き是非ご一緒に参加の程お願いします。ご期待ください。

○来年度のテーマ:

「タンゴの名演、名唱を聴く—その所以を探る」

○開催日程：3月・6月・10月の第3金曜日

詳細は、追って改めてご連絡します。



協会の活動報告

～ 9月2日（水） 当協会会員高橋幸子画家に同道、 デジャン大使を表敬

洋画家高橋幸子氏（日本建築美術工芸協会、日本美術家連盟、国際美術家連盟、各会員）は、日本の美し

い風景を描かれ、特に古都京都、奈良の寺の風景、また故郷三陸海岸の海洋風景等を繊細で、優しく、きれいな色彩で仕上げている画家。昨年10月、ニューヨーク・マンハッタンでこれら30点を展示して個展を開き、大変好評でニューヨーク市民の感銘を受けた。

9月2日（水）当協会永井理事長、加藤常務理事が高橋氏を紹介方々デジャン大使を表敬した。

同氏は、デジャン大使に、アルゼンチンと日本の益々の友好を祈念する印として、同氏の油彩画「富士」（F3号）をアルゼンチン大使館に寄贈したい旨申し出られた。

デジャン大使から、大変にありがたいことですが、この種要件については、本国の規定に従って進める必要があるため、即座に承諾することはかなわないとのご返答があり、持参した当該の絵は、本国に申請して、その返事が来るまで、大使館に安全保管して頂くことになった。

因みに、2015年芸術家年鑑評価額によれば、高橋氏の絵画は20万円/号、今般公表された2016年のそれは21.5万円/号である。

～ 10月10日（土） 第10回アルゼンチン大使館 カップ・ゴルフトーナメント

アルゼンチン大使館は、アルゼンチンへの観光増進並びに日本との友好交流を深めるために、神奈川県相模原市の神奈川カントリー・クラブゴルフ場の協力を得て、同ゴルフ場でゴルフ・トーナメントを毎年実施しており、本年はその第10回目という節目の年であるため、当協会に対し協賛等の協力要請があった。

趣旨に賛同して、当協会からワイン1ダースを提供した。

本年は日時の都合から当協会からは参加者が無かったが、ゴルフ・プレイの後、毎年デジャン大使が出席されての懇親パーティーがあり、特に今年はタンゴ・ショーも追加されて盛り上がった催しであった。

～ 10月16日（金） 茨城県長田小学校 「アルゼンチンの日のつどい」

駐日デジャン大使ご夫妻をお招きした長田小学校恒例行事の第27回「アルゼンチンの日のつどい」-長田ふれあいフェスティバル-には、当協会もお招きを受けて、加藤常務理事と藤田業務執行理事が参加した。



フェスティバル開始の言葉

アルゼンチンと長田小学校の交流は、1935年（昭和10年）に当時の在日アルゼンチン大使館のモンテネグロ代理公使が、同小学校を訪れたのが発端。（遡れば、モンテネグロさんの祖父が1853年に浦賀にペリー来航時、その黒船に乗って来日、当時関宿藩（現在の境町）の右筆（書記係）野本作次郎さんと出会い、熱い友情が生まれたことが原点）1933年（昭和8年）、駐日公使アルツォ・モンテネグロ氏（モンテネグロさんのお孫さん）が野本作兵衛さん（作次郎さんのお孫さん）と出会い、1935年（昭和10年）野本さんの母校（長田小学校）を訪問された。以来80年間、境町及び長田小学校とアルゼンチンとの友好交流が続いている。

生徒全員が主体となって計画された今年のフェスティバルは、大変内容が濃いもので、特に6年生代表が発表披露されたこれまでのアルゼンチンとの交流の軌跡は、デジャン大使夫妻、境町橋本町長、境町教育長他関係者及び出席された父兄の皆さんを感銘させた。



大使夫妻から記念品を戴く



おみこし担いだ生徒と共に

デジャン大使と橋本町長との懇談の中で、更なる交流の絆を深めるためにも、長田小学校の高学年の有志生徒にアルゼンチンを訪問してもらう機会を考えたいとの意見で一致された模様。

これが実現すれば、大変画期的なことであり、当協会としても、境町、長田小学校のアルゼンチン訪問計画策定に当たって、出来る限りの側面的協力、アドバイスを提供する所存。

～ 10月16日 (金) 第28回「タンゴ音楽の集い」

タンゴ・マエストロ飯塚久夫氏(当協会理事)の絶妙なトークと映像を巧みに駆使した出し物による「タンゴ音楽の集い」は、当協会主催催事の中では超人気イベントである。

10月16日に行われた表題「タンゴが訴えかけるもの—その表現と変遷を楽しむ」には、55名を超えるタンゴファンが参集。25曲の選りすぐりのタンゴに約2時間酔いしれた。紹介された曲の中で、アドリアナ・バレラはカラオケで是非お会いしたい女性の一人だとの印象を受けた。また、ビルヒニア・ルーケは、出来ることならもう一度生の舞台を観たい大御所だが、出演の前の周到な準備を何歳になっても欠かさないプロとしてのすごさにはびっくりした。

マルタ・アルゲリッチの映画「アルゲリッチ 私こそ音楽」で映し出された出演直前の彼女の不機嫌さとも相通じるものを感じた。

～ 10月18日 (日) アルゼンチンタンゴ・コンサート in 湯河原

10月18日(日)14:00、湯河原の檜チャリティコンサートホールにて、地元アルゼンチンタンゴ実行委員会(委員長:青木智子)によるアルゼンチンタンゴ・コンサートが華やかに実施された。地元真鶴町・湯河原町の方々、小田原・足柄地区近隣の方々、静岡から同窓会を兼ねてこられたの方々、関西から出演者の追っかけ組の方々、千葉・東京など首都圏からの方々、総数300人以上の方々が集結、300席のホールを埋め尽くした。檜のにおいかおる総檜造りのホールのステージはまさに檜舞台。



アストロリコ四重奏団と歌手KaZZma

出演したアストロリコ四重奏団、歌手KaZZma、ダンスのエンリケ・カロリーナに対し、最終曲「ラ・ク

ンパルシータ」終了時には、タンゴの魅惑の世界を堪能した全員が総立ちになり大絶賛の拍手喝采を送った。



出演者全員のフィナーレ挨拶

協賛いただいたクレーレ熱海ゆがわら工房、(株)ぐるなび、また後援いただいた湯河原町・真鶴町、また檜舞台を提供していただいた檜ホール(尖代表)に感謝申し上げます。今回の成功にご尽力頂いた実行委員会のメンバーに感謝申し上げます。

尚、収支プラス分は、実行委員会より湯河原町・真鶴町の社会貢献活動に寄付されたことを申し添えます。

～ 10月28日 (水) フェスティバル・ラテイノアメリカ カーノ2015へ協賛

例年恒例の(社)日本・ラテンアメリカ婦人協会主催のチャリティー・バザーが東京プリンスホテルで開催された。

例年同様に、中南米・カリブ諸国の物産・民芸品の販売、ラテンアメリカ音楽、民族舞踊、歌の疲労と、大変な賑わいで盛況であった。

本年も、当協会として、アルゼンチン大使館宛に、チケット20枚分の協力を行った。

～ 11月8日 (日) 第53回アルゼンチン共和国杯 (東京競馬場)

府中の東京競馬場に27000人の観衆が見守る中、第53回アルゼンチン共和国杯(重賞Ⅱ)が開催された。午前中からの小雨の中、15:35分にレースはスタート、1番人気の「ゴールドアクター」が4番人気の「メイショウカドマツ」をゴール前で差し切り、この重賞レースを制覇した。

レース終了後、アルゼンチン共和国ラウル・デジャン駐日大使より優勝馬の場主(居城 要氏)に優勝カップが贈呈された。

ある歌唱力で聴衆を魅了した。

昨年5月、当協会主催懇親会にゲスト参加し、参加者全員の大きな拍手を得たことは記憶に新しいことです。

バネちゃんは、2001年10月にブエノスアイレスで開催された「NHKのど自慢」アルゼンチン大会に19歳で出場、門倉有希の「女の漁歌」を歌い優勝。

翌2002年3月、NHKホールでの「NHKのど自慢チャンピオン大会」にアルゼンチン代表として出場、見事、海外勢として初めてのグランドチャンピオンとなるや、大手レコード会社からスカウトされ、同8月に「鷗も飛ばない海だよ」の新曲でプロデビュー。現在は、ビクターに所属して、歌を通してアルゼンチンと日本の友好の懸け橋となることを切望しており、作詞家青山るみさん（バネちゃんの事務所社長でもある）と共に日本全国を巡り、草の根音楽活動を続けている努力家。父は沖縄県生まれの日系1世、母は祖父母が沖縄出身の日系2世であることから、沖縄への愛着は一人倍。沖縄県から観光大臣に任命されている。

「追っかけ三兄弟」とは、寺本、藤田、松本（筆者）の3人（いずれも当協会の理事で、かつて在籍していた日本の大手企業のアルゼンチン代表として駐在していた）。バネちゃんがアルゼンチンで、歌謡大会や音楽祭に出場して優勝を目指していた1996年頃からのバネちゃんの小女時代からの音楽活動を知っていた。バネちゃんがプロデビューして間もなく、特に2005年以降、3人で直接、間接的に支援し出しているのが追っかけの始まりです。

9月19日（土）、神奈川県真鶴町の真鶴町民センターで、同町主催の盛大な敬老会が開かれることになり、その第2部イベントとして歌謡コンサートが開かれることになった。寺本さんが懇意にされている宇賀一章町長他町役場の方々のご厚意で、その歌謡イベントにバネちゃんがゲスト出演することになった。

バネちゃんがのど自慢アルゼンチン大会で優勝した時のNHK司会者の元NHKアナウサー宮川康夫さんも司会者として駆けつけ会場は大いに盛り上がった。

敬老会に参加したお年寄りの中には、彼女の歌を聴き、感激して涙を流し、よかった、よかった、と喜んでいた姿があり、バネちゃんにとっても、この上ない感激であったことでしょう。3兄弟にもじんと込み上がってくるものがあり、お年寄りの方々の純なお姿に感動した次第。

これからもバネちゃんは、益々精進、一生懸命努力され、日本を代表する歌手に成長されることを祈念し

て、3兄弟も支援し続けて行きたいと思っています。

当協会の会員、皆様に於かれましても、暖かいご声援を賜れば光栄に存じます。

（筆者：松本 良彦 当協会業務執行理事）

3. 新刊書物紹介

「ハンガリー公使大久保利隆が見た三国同盟 —ある外交官の戦時秘話—」

大久保利隆氏は、大久保利通氏の従兄弟で、初代の駐アルゼンチン日本大使（1953～1955）で、帰国後、昭和30年10月に日本アルゼンチン協会の顧問を委嘱、昭和32年7月に外務大臣の認可がおり（社）日本アルゼンチン協会（当協会）として発足してから、初代会長内山岩太郎氏の後を受けて昭和47年（1972）から昭和53年（1978）まで当協会会長を務められた方。

戦後70周年の今年、大久保利隆氏の孫にあたる高川邦子氏（著者）によって、祖父が戦後まとめた回想録を検証した評伝が完成し、出版された。

“ドイツは必ず負ける！それも1年から1年半後に” 枢軸同盟国の不利を日本に伝え、一日も早い終戦を説いた外交官の生涯を描いた評伝です。

全国の書店で求められますので、ご案内します。

「ハンガリー公使 小久保利隆が見た三国同盟」

高川 邦子著

定価 2,700円（税込）

芙蓉書房出版 Tel ; 03-3813-4466
Fax. ; 03-3813-4615

4. 当協会会員山本嘉子氏著書

「ジャカランダ幻想」が日本自費出版文化賞入選

第18回日本自費出版文化賞は、応募総数612点が、本年4月～9月に亘り、1次、2次、最終選考を経て、10月10日に発表された。

最終選考で大賞1点、部門賞7点、特別賞7点、入選55点が決定したわけですが、山本さんの作品、エッセイ部門は87点の応募で8点が入選した。

益々のご精進とご活躍をお祈りします。

会員の皆様からの自由なご意見、情報、原稿投稿をお待ちしています

「アルヘンティーナ」に会員からの自由な「会員投稿欄」を設けて、会員交流を図って行きたいと思います。

お住いの市町村名、年齢、お名前（ペンネームでもOK）記載してご投稿ください。お待ちしております。

投稿先：日本アルゼンチン協会 FAX: 03-6809-3682 E-mail: nippon@argentina.jp



協会ホームページの活用及び E-メール通信の件

1. ホームページ (URL:<http://www.argentina.jp>)

何らパスワードの入力は不要で、誰でも自由にホームページ内情報にアクセス出来ますので、ご活用ください。

2. E-mailアドレス

nippon@argentina.jpが、協会のE-mailアドレスです。

アルゼンチンに関わる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えする為、E-mailアドレスを連絡頂いている会員の方にはメール通信を始めております。

このメール通信をまだ受信されていない方で、受信をご希望の方は、住所、氏名及びメール・アドレスを当協会メールアドレス宛 (nippon@argentina.jp) 発信、ご連絡下さい。次のメール通信から送信致します。ご連絡頂きましたメール・アドレスは、当協会の情報伝達関係以外の用途には使用致しません。

ご質問その他お問い合わせある場合は、協会事務所宛お電話ください。

電話：03-6809-3681 担当；阿部

平成27年度 年会費納入のお願い

本年度（平成27年4月1日～平成28年3月31日迄）の年会費のお支払いがまだ未納になっている方が一部お見受けします。早めにお支払手続きを済まして頂きますようお願い申し上げます。

個人正会員：1万円

個人賛助会員：5千円

住所変更届けのお願い

ご住所が変わりました際は、早めに新住所を協会事務所にご連絡ください。

電話：03-6809-3681

FAX: 03-6809-3682

E-mail: nippon@argentina.jp

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

編集長よりの御礼

フロント・ページの写真は、水上前駐亜日本大使からご提供頂きましたフォトです。

執筆、原稿に当たっては、平尾行隆様、津島勝二様にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー (Resumen en castellano) は、イレーネ賀集さん（当協会理事）に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

日本アルゼンチン協会会報 第67号
2015年12月17日発行

発行人 永井 慎也（当協会理事長）
編集長 加藤 勝巳（当協会常務理事）
編集発行 一般社団法人 日本アルゼンチン協会
〒108-0073
東京都港区三田 2-7-16 協和三田ビル 3階
電話：03-6809-3681
FAX：03-6809-3682
E-mail：nippon@argentina.jp
URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート